

5-2 東海地方の微小地震の分布 (1989年5月1日～10月31日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (May 1 - Oct. 31, 1989)

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1989年5月1日より1989年10月31日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

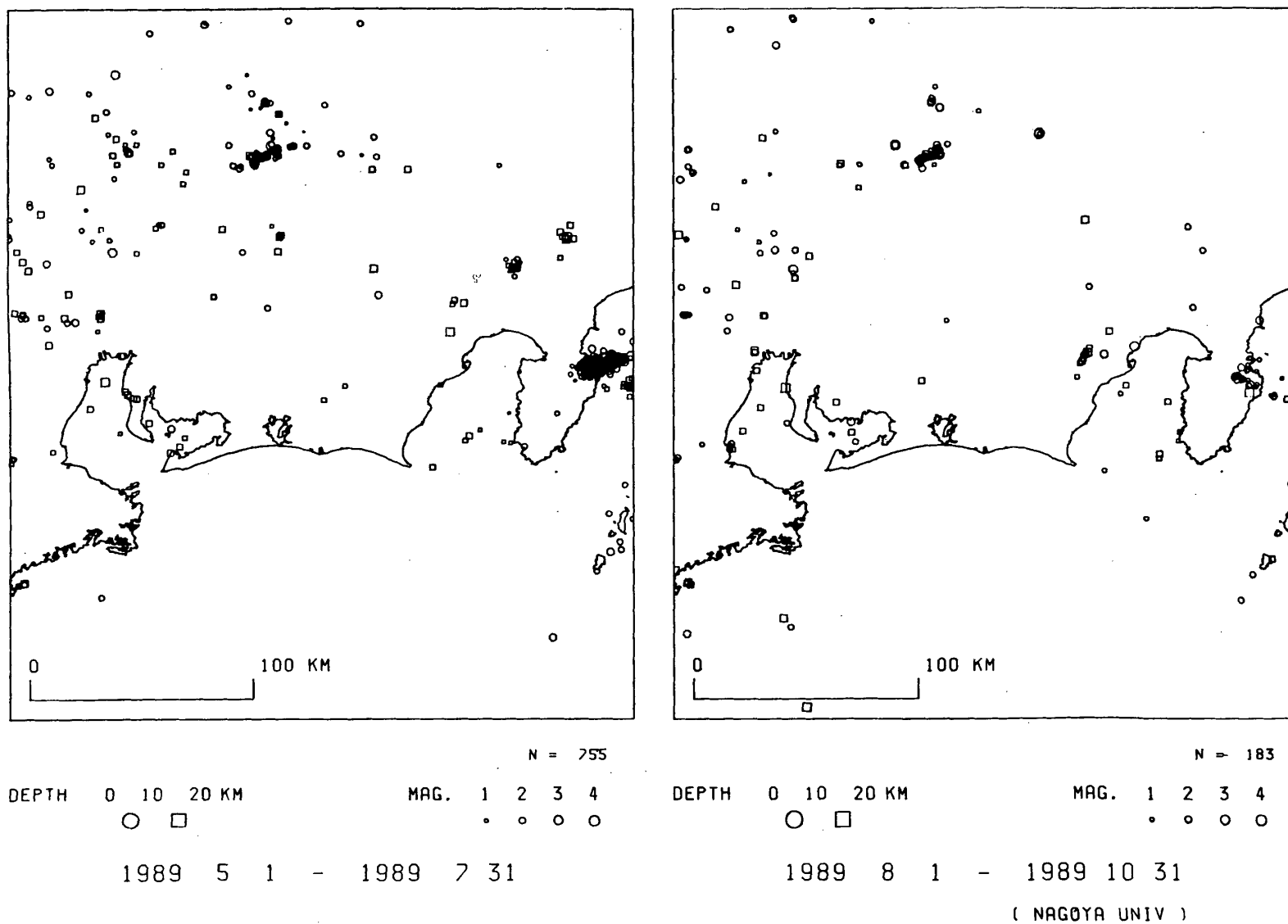
第1図は1989年5月1日より1989年10月31日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月づつの期間に分けて示したものである。第2図は同じ期間に20kmから80kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 伊豆東方沖では1989年5月21日から群発地震活動が始まり同年6月13日には静穏になった。6月24日にM3.1の地震があったが7月1日より再び活発となり、7月4日にM4.9、7月7日にM5.2の地震を含む活発な群発地震活動が8月末まで続いた。この間に7月12日と13日に微動が発生し、13日18時33分頃伊東市沖で海底火山噴火が確認された。9月には群発地震活動も静穏になった。
- (2) 長野県西部では依然として地震活動が続いており、5月15日にM3.2、6月30日にM3.3、7月21日にM3.5、7月31日にM3.2の地震が発生している。
- (3) 1989年5月10日から5月14日にかけて富士山直下で小規模な群発地震活動があり、M2.3以下の地震が30回観測された。
- (4) 静岡市付近において7月23日にM3.1、8月19日にM3.7、9月24日にM3.1、9月28日にM3.1の地震を含む地震活動があり10月14日には清水市付近でM3.9の地震が発生した。
- (5) 愛知県・岐阜県南部では5月から8月にかけての地震活動がやや活発であったが9月10日は静穏であった。

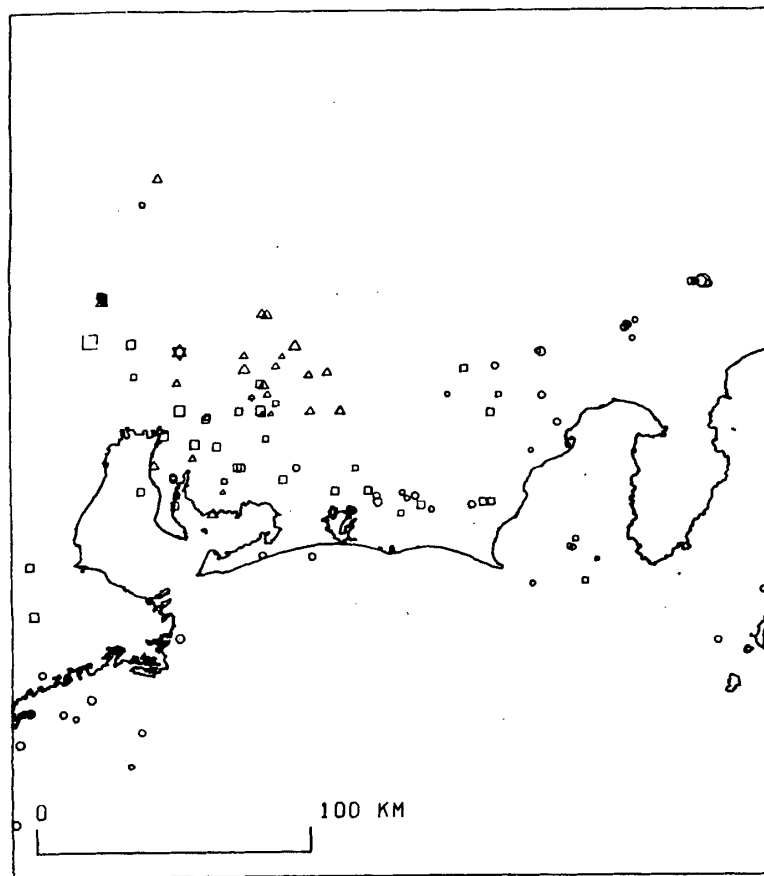
参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布 (1988年11月1日～1989年4月30日)，連絡会報，42，(1989)，250-252.



第1図 微小地震の分布 (1989年5月1日~10月31日) 震源の深さが20km以浅のもの

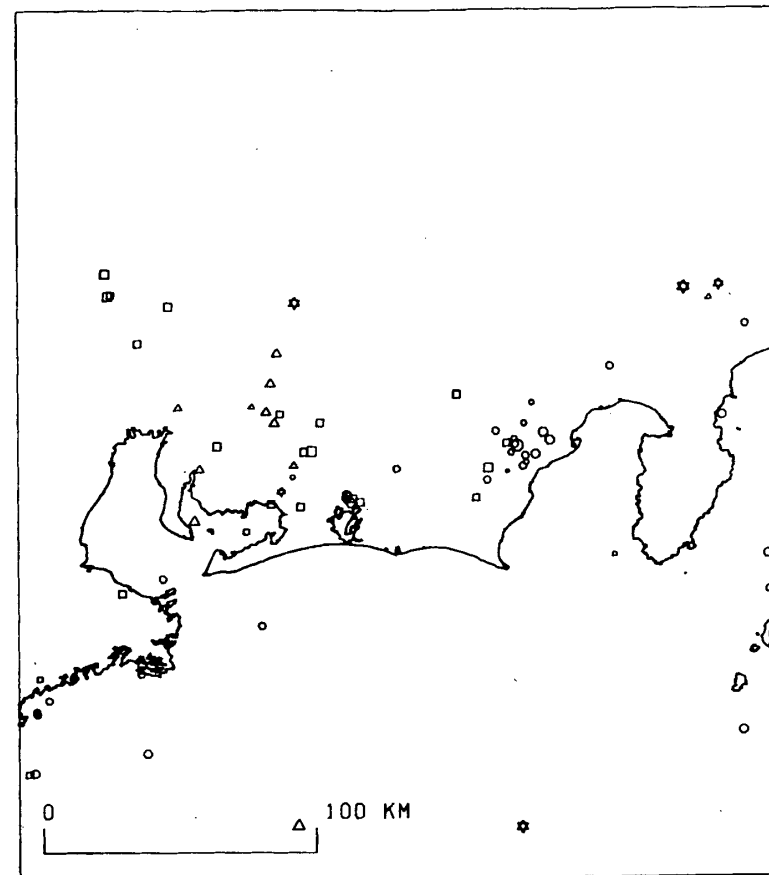
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, - Oct. 31, 1989) shallower than 20 km.



N = 128

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1989 5 1 - 1989 7 31



N = 80

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1989 8 1 - 1989 10 31

(NAGOYA UNIV)

第2図 微小地震の分布（1989年5月1日～10月31日）震源の深さが20kmから80kmのもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, - Oct. 31, 1989) deeper than 20 km.